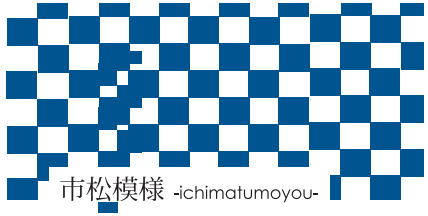
吉祥文様 -kissyoumonyou -

祥とは、『よい兆し、めでたいしるし』の意味で、縁起がいいとされる植物や、動物、もの、などを表現した図柄を吉祥文様（きっしょうもんよう）と言います。
豊かさや長寿、幸福。こうした願いを、人々は生活と深く結びつくもの、あるいは想像上のものに託して、工芸品の文様の中に表現してきました。
日本の伝統的な吉文様を印判によって美濃焼の小さな器に表現し、純和風のインテリアグリーンとして展開します。

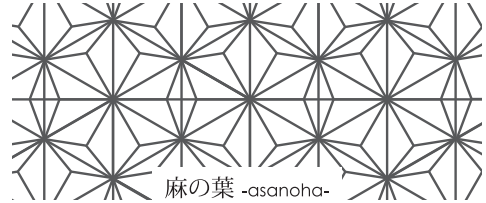


市松模様 -ichimatumoyou-

色の正方形を交互に配置して作られた柄は古代より織模様として使用され、江戸時代に活躍した歌舞伎役者の佐野川市松が袴に用いたことから人気になり『市松模様』の名前が付きました。

山桜 -yamazakura-

咲き誇るように花をつけ、盛大に花を散らすその在り方から日本人の美意識と結びつき、桜は古くから日本人に愛されてきました。『繁栄』『五穀豊穣』などを表す吉祥文様として用いられています。



麻の葉 -asanoha-

麻の葉がすくすくと真っ直ぐに成長しとても強く、丈夫であることから、麻の葉の文様は子供の成長を願ったり、『魔よけ』の効果があるとされています。

矢がすり-yagasuri-

本では非常に古くから使われている模様で、結婚の際に矢絣の着物を持たせると出戻ってこない（射た矢が戻ってこないため）と、いわれるようになり、縁起柄とされるようになりました。

七宝 -shippou-

輪が四方八方へ広がることから『しっぽう』となり、人と人の縁（輪）は、七つの宝と同等の価値があるとされました。無限に連鎖する輪の交差から成る文様のため『無限の繁栄』の意味も込められています。

青海波 -seikaiha-

海がもたらす恵みをよび起こす縁起の良い文様とされ、どこまでも広がる大海原に絶えず繰り返される穏やかな波のように、人々の幸せな暮らしがいつまでも続くようにという願いが込められています。

『印判』について

印判とは主に版や型紙を用いて絵付けを施す手法で、これらの陶器には銅版絵付という古くからある技法が用いられています。呉須（ごす）と呼ばれる顔料で文様を印刷した和紙[銅版紙]を素地に巻きつけるるようにして貼り、転写して絵付けするというものです。絵付けした文様がにじみ出る様な味わいと、職人による手作業ならではの手作りの温かみが感じられのも印判の特徴です。
手作業であるがゆえのわずかな「図柄の重なり」や「かすれ」などが生じる場合もありますが、ひとつひとつの個性として、手作りならではの風合いをお楽しみください。